#142

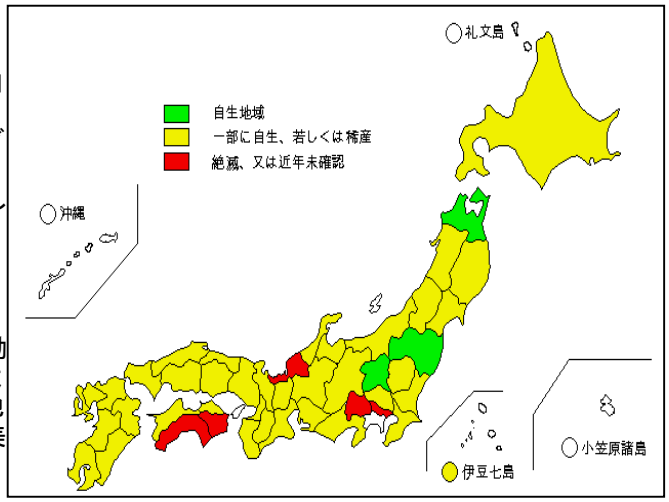
サギソウ

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

Habenaria radiata

サギソウ(愛知県西三河　09.07/25)

全国の明るい湿地に自生します。トキソウと並び日本の湿地を代表する大変美しい蘭です。当地中部地方では晩春に芽吹き、7月～8月初旬に30cmほどの花茎を伸ばし、純白で複雑な花弁の花を1～2輪咲かせます。雑木林の中に点在する開けた明るい湿地を好み、モウセンゴケやミミカキグサなどの食虫植物やトキソウ、サワラン、コバノトンボソウ、ミズチドリ、ミズトンボなどの湿地性蘭などに混ざって自生していますが、その中でも純白で大きな花は大変よく目立ちます。地下に球根を持ち、冬季は地上部が枯死して越冬します。その美しさより、古くから好んで栽培され、斑入りの固体などが選別されどこの花屋さんでも普通に見られる種となりました。しかし、自生地の激減に伴い様々な保護活動が行われておりますが、自然湿地で斑入りのサギソウが大量に植栽されるというような、誤った保護活動による自生地の攪乱が問題になるなど弊害もでております。このように美しく有名であることから、自然保護活動のシンボリック的存在にされることが多い蘭です。



全国の湿地に自生します。

サギソウ(愛知県西三河　09.07/25)

一昔前までは全国の湿地に普通に見られたものですが、湿地の宅地化や乾燥による消失、笹の侵食による草原化などで自生地は激減し、今では人為的に管理された湿地以外で自生に出合うのは困難です。商用生産は盛んに行われておりますので、販売目的の大量盗掘は現在ではほぼ皆無ですが、長年繰り返されてきた大量盗掘による傷跡は数年で回復するものではなく、湿地自体の消失とも合わせて減少の一途をたどっています。現在では泥縄的発想ではありますが、自生地の復元活動もたびたび行われています。ただ改良品種を植え込んだり、湿地に勝手に由来の分からない球根を撒いたりというような、活動家の軽率な行動により攪乱されている自生地も多くあります。街中の公園を「自然がいっぱい」と解釈するような、「緑が多いことが自然」という理解不足が「人口的な自然」をつくりあげている一番の要因なのかもしれません。本来ならばここまで危機的な状況になる前に自生地の保護をすべきですが、過去をせめても無意味な為、現存する自生地の保全が最優先です。

Document and photo by LittleFlower 2009

今ではシーズンになるとホームセンターでも売られる為入手は容易です。斑入りや変わり花が盛んに商用生産されているため、価格も安価で入手できます。但し、一般的に「青葉」として売られているものは、一見並の原種ですが、斑入りなどの固体選別漏れが多く、一世代後に斑入りが出たりしますので、改良品種として扱ってください。ゆえに、青葉だからといって湿地に撒いたりすれば逆に自然破壊になってしまうということを御理解願います。　栽培は容易です。ミズゴケか川砂、赤球などで球根を植え込み、直射日光の当たる場所で越水で管理してあげれば元気に花を咲かせます。暑さには非常に強い蘭ですが、冬場の凍結は念のため避けてやってください。（凍ってしまってもまず元気ですが）
増殖も容易です。環境が合えば年2～3倍に増えますし、結実率、発芽率共に良く、実生繁殖も期待できます。食虫植物やベニチガヤ、山ラッキョウ、シラタマホシクサ、他湿地性蘭などと共に大鉢に植え込んで越水管理してやれば、野趣あふれる趣で半永久的に植替えしなくても元気に育ちます。

サギソウ（愛知県西三河　09.07/25）

サギソウ（愛知県西三河　09.07/25）

サギソウはミズトンボ属で、近縁種としてはやや寒冷地性のミズトンボや南方系のダイサギソウなどがあります。どちらもサギソウにはあまり似ておりませんが、ミズトンボとサギソウの間では自然交雑種が確認されており、スズキサギソウと呼ばれています。

サギソウ（愛知県東三河　09.07/04）

サギソウ（愛知県西三河　09.07/25）

Document and photo by LittleFlower 2009